

渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会ニュースレター

第14回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会を開催しました

平成29年2月27日（月）9：30～12：00に、栃木県栃木市の藤岡遊水地会館において「第14回渡良瀬遊水地湿地・保全再生モニタリング委員会」を開催しました。

◆モニタリング委員会の概要

今回は湿地保全再生検討会委員会委員2名にもご参加いただき、9名にご出席いただきました。

【委員参加者名簿】 ○印がモニタリング委員会委員

（学識者・NPOなど）（五十音順・敬称略）

○青木 章彦 作新学院大学女子短期大学部 教授

○大和田 真澄 栃木植物研究会 会員

○栗原 隆 栃木県立博物館 主任

○佐藤 邦明 埼玉大学 名誉教授

○清水 義彦 群馬大学大学院 教授

○関口 明 渡良瀬遊水地野鳥観察会 副会長

○高松 健比古 渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会 代表世話人

田中 宏明 京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター 教授

松尾 和巳 国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 水環境研究官

委員会では、本年度のモニタリング結果および今後の検討方針について報告するとともに、今後の掘削候補地および今後のモニタリング計画（案）について説明しました。委員からは今後のモニタリング方法や植生回復方法、重要種の保全方法などについてご意見やご助言を頂きました。



○報告内容と主なご意見

<モニタリング結果について>

実験地における植生や水位の調査結果を示すとともに、掘削手法へ反映する内容や今後の実験の進め方について報告しました。ポイントは以下の通りです。

- ・水深の浅くなった（10 cm程度）人工窪地では、多くの湿性植物が定着していた。
- ・平成 27 年度、平成 28 年度ともに 9 月の台風の影響によって実験地が湿潤化し、セイタカアワダチソウが減少した。
- ・掘削地で再生したヨシは、既存のヨシ採取地と比較して、直径・高さともに小さかった。

◎主なご意見

- ・土壌の含水率は植物の生育に極めて重要である。
- ・昆虫類と掘削の関係についてのデータの蓄積は不十分であることから、現在行っている試行調査は、施工後の調査も確実に行ってほしい。
- ・チョウジソウやシムラニンジンなどの植物重要種の保全対策のために、それらの生育立地や生活史を把握したほうがよい。
- ・谷中湖の干し上げ時に、第 2 調節池の水辺が水鳥の餌場として重要となる。今後、第 2 調節池で水鳥の餌となる水生生物も調査してほしい。

<今後の検討方針について>

植生回復対策、多様な湿地環境の創出、ヨシ原の再生、ヤナギ類対策、人為攪乱の導入などについて、委員会へ検討方針に説明しました。新しい報告内容は以下の通りです。

- ・掘削地で再生しにくいチョウジソウやシムラニジンは、種子の散布を手助けするなどの対策を行う。
- ・ヨシズのための「ヨシ刈り実験地」および「ヨシ焼き実験地」やヤナギ類の抑制方法を見いだすための「ヤナギ焼失実験地」の設置が完了し、モニタリングの準備が整った。

◎主なご意見

- ・植物重要種の保全対策については、保全対策の選定フローをバージョンアップした方がよい。例えば、掘削回避エリアについては、メンテナンスの方法にまで言及した方がよい。また、自生地の存続が危ぶまれる種については、系統保存などの措置も考えられる。
- ・現況を保全する地区は、全く手をつけないのではなく、適切な保全対策を講じてほしい。保全対策の内容については、委員会で十分に検討する必要がある。
- ・表土撒きだしの利点は、シードバンクを活用し、貴重植物を復活できることであり、その点を意識して、表土撒きだしを実施してほしい。